

# Microsoft Teams 活用が支える学内外コミュニケーション 限られた人員で、最適なリスクコントロールと 運用管理体制を実現



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS



## お話を伺った方



琉球大学  
教育学部 技術教育教室 教授  
情報基盤統括センター長  
福田 英昭 氏



琉球大学  
総務部 情報企画課  
課長代理  
大川 康治 氏



琉球大学  
総務部 情報企画課  
情報推進係  
係長  
安座間 理恵 氏



琉球大学  
総合技術部情報グループ  
情報基盤統括センター  
技術専門職員  
庄司 博光 氏



琉球大学  
総合技術部情報グループ  
情報基盤統括センター  
技術専門職員  
新田 保敏 氏

2015年10月にMicrosoft Office 365の学内提供を開始し、新型コロナウイルスの社会的影響が深刻となった2020年、大学内・そして大学と学生間のコミュニケーション手段として、新たにMicrosoft Teamsの活用をスタートした琉球大学。当初は学生を含むユーザーが自由にチームを作れる環境でしたが、管理面やセキュリティ面で想定されるリスクを考慮し、申請制への移行が検討されました。この移行作業を限られたスタッフ数で行うため、2023年10月に導入されたのがAvePoint Cloud GovernanceとAvePoint Policies & Insightsです。これによって管理者の負担を大きく増やすことなく申請制へと移行。使われていないチームの自動棚卸しやゲストメンバーの管理も可能になりました。さらに、Teamsのバックエンドで使われているMicrosoft SharePoint Onlineのファイル共有リンクの有効期限の自動設定や、期間無制限のログ蓄積も実現。学内だけではなく、学外も含めたTeams活用をより安全に行える環境が整備されています。

## お客様情報

### 大学所在地

沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

### 業界

高等教育（大学）

### 教職員数

2,331人（2023年5月現在）

### ご採用いただいたソリューション

- AvePoint Cloud Governance
- AvePoint Policies & Insights

### ハイライト

- 自由にチームを作成できる状態から、限られた人員で申請制へと移行
- チームポリシーの徹底や、ゲストユーザーなどのリスク分析を実現
- ファイル共有リンクの有効期限を自動設定し情報漏えいリスクを抑制
- ログ保持期間も180日から無制限へと延長

### 導入パートナー

株式会社オーシーシー

## ✔ コロナ禍、リモート教育環境で Microsoft Teamsの積極活用スタート。 自由な使い方が広まる一方、大量に生成された “ゴースト”チームの管理やセキュリティリスクが顕在化

戦後間もない1950年5月にアメリカ合衆国による沖縄統治下で、「自由と平等・寛容と平和」を理念に掲げて開学した琉球大学。1972年の沖縄本土復帰に伴い文部省管轄の国立大学となり、2004年に国立大学法人になっています。現在は、人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部の7学部で、教育/研究活動を展開。沖縄県中頭郡西原町にある上原キャンパスと千原キャンパスで、約8,000人の学生が学んでいます。

2015年10月にはキャンパス情報システム サービスの一環として、Microsoft Office 365の提供を開始。その後、教育機関向けのMicrosoft 365 A3サブスクリプションへと移行し、コロナ禍におけるコミュニケーション手段として、Teamsの活用をスタートしています。

「当初はコロナ禍で利用ニーズが高かったこともあり、ユーザーが自由にチームを作成して活用できるようにしていました」と語るのは、琉球大学 教育学部 技術教育教室 教授で情報基盤統括センター長も務める福田 英昭氏。リモート授業はもちろんのこと、学内の学会活動や学生のサークル活動でも、積極的に活用されているといいます。「最も多いときには、教職員と学生を合わせて約6,000ものチームが作られていました」。

しかしこのような運用は、管理面やセキュリティ面で大きなリスクがあることも、当初から意識されていたといいます。

「Teamsでチームを作成する際には、基本的にアクセス制限が設定されたプライベートチームとして作成することをルールにしていたのですが、チーム作成後に誰もがアクセスできるパブリックチームにしてしまうことで、学内全体にそのチームの情報が公開されてしまうリスクがありました」と言うのは、琉球大学 総務部 情報企画課で課長代理を務め、情報セキュリティ係長も担当している大川 康治氏。またTeamsのバックエンドとして使われているSharePoint Onlineでフォルダやファイルがパブリック設定になっていると、その共有リンクを入手したユーザーが自由にアクセスできるようになってしまう、という問題もあったと振り返ります。「ゲストの追加も自由だったので、これを管理したいという思いもありました。さらに教育機関向けのMicrosoft 365 A3サブスクリプションではセキュリティログが180日しか残せず古いログの保存をどうするかも、不安要因の1つでした」。

その一方で「約6,000あるチームの中には、実際には使われていないものも少なくありませんでした」と指摘するのは、琉球大学 総務部 情報企画課 情報推進係で係長を務める安座間 理恵氏です。しかしチーム名を見ても何のためのチームなのかかわからず、1件ずつ聞き取り調査を行うのも大変であるため、放置されているチームの棚卸しは難しい状況だったといいます。

「最終的にはチームを誰もが自由に作れる状態から、申請が必要な環境へと移行すべきだと考えていました」と福田氏。しかし一方で、申請制の仕組みは運用管理を担当する情報基盤統括センターや情報企画課の負担を一気に増やすことになるため、簡単には踏み切れなかったといいます。「負担を大きく増やすことなく、管理性やセキュリティを高める仕組みが必要でした」。

## ✔ 長期間のログ管理と Microsoft Teams 管理を 同時に行えるのは AvePoint のみ 教育機関に特化した Microsoft Education への対応も 高く評価し、採用へ

2022年10月、このような現場の課題解決に向けた情報収集を進めていく中で、AvePoint



Cloud Governance と AvePoint Policies & Insights に会うこととなります。

「検討段階で重視したのは、より長期間のログ収集/管理と Teams 管理を両方行えることです。ログ管理製品は数多く存在していますが、Teams 管理も同時に行えるのは、AvePoint Cloud Governance しかありませんでした」（大川 氏）。

2023 年 1 月には PoC を開始し、チーム作成の申請フローやポリシー設定などの機能を検証。2023 年 6 月に入札を行い、AvePoint の採用と導入パートナーを決定しています。

「PoC では教育機関で利用しやすいかどうかを、重点的に検証していきました」と安座間 氏。Microsoft Education の Teams には、教員がチーム所有者と学生がチームメンバーになる「クラス」や、教育者どうしがチームを組む「PLC (Professional Learning Community)」、学校職員がリーダーとメンバーになる「スタッフ」、同じことに興味を持つグループやクラブ活動向けといった「その他」、4 種類のチームがあらかじめ用意されていますが、これらに対応したチームの振り出しが可能であることが、必須条件だったと言います。「AvePoint 製品はこれらに対応しており、チーム振り出し後もプライベートに統一するといったポリシーの徹底が可能です」。

2023 年 7 月には AvePoint 製品の導入プロジェクトをスタート。チームのポリシーやライフサイクル設計を明確にしたうえで、各種設定が行われていきます。その 3 か月後には AvePoint Cloud Governance と AvePoint Policies & Insights による運用管理をスタート。この時点でチーム作成を申請制へと移行完了しました。

現在の申請/承認フローについて、琉球大学 総合技術部情報グループ 情報基盤統括センターで技術専門職員を務める庄司 博光 氏は、次のように説明します。

「まず外部のゲスト ユーザーが参加しない学内のみで利用されるチームに関しては、申請に対して自動承認が行われ、チームが振り出されます。チーム作成後のメンバー追加は可能ですが、参加できるのは学内のメンバーのみとなります。学外ゲストの参加を前提としたチームを教職員が申請する場合には、情報基盤統括センターがその内容を確認し、承認を行います。承認後はチームが自動作成され、学内/学外のメンバーを追加できます。事務職員が同様のチームを申請した場合には、情報企画課が承認を行います」。

90 日間アクティビティがなかったチームがある場合には、チーム管理者に対して「チームを削除するか否か」を確認するメールが自動送信される、と説明するのは安座間 氏です。これに対して何もアクションが行われなかった場合、さらに 30 日後に督促メールを自動送信。これへの対応もなかった場合には、自動的にチームが削除される仕組みを構築したと言います。



### 申請制への移行で、情報漏洩をはじめとした セキュリティリスクを大幅に軽減！ 最小限の管理体制で、共有リンクの期間制限や ゲスト管理問題も解決

「AvePoint Cloud Governance の導入によってポリシーの徹底が可能になったため、ユーザーの勘違いや設定ミスで情報漏洩する危険性がなくなりました」と庄司 氏。以前はユーザーが誤ってパブリックでチームを作成してしまうこともありましたが、現在はそのようなことは皆無になったと言います。「情報基盤統括センターの作業負担も、ゲスト参加を前提にしたチームの内容確認だけなので、それほど増えていません」。

これに加えて、AvePoint Policies & Insights によって、機密情報が含まれるファイルへのアクセス状況や、ゲスト ユーザーの活動状況などのリスク分析が可能になったことも、高く評価されています。「一時的に招待した後で消し忘れた“ゴーストゲスト”も、自動的に検知できます」と大川 氏。ゴーストゲストが見つかった場合には、90 日間アクティビティがないことを確認したうえで、自動的に削除していると言います。



Teams のバックエンドで使われている SharePoint Online の共有リンクの管理も実現しています。フォルダやファイルを共有するために発行された共有リンクは、作成から 30 日後に自動削除されるようになっています。

「情報共有は基本的に Teams 経由で行うようにしていますが、現在でもメールでファイルやり取りするケースは少なくありません。今後はメール添付でファイルを送信する PPAP をなくしていきたいと考えていますが、メールで共有リンクを送信するケースも考慮に入れ、最終的には共有リンクを 10 日程度で削除する運用にしたいと考えています」（大川 氏）。

さらに、ログ保存期間の制約も解消されました。現在では期間無制限でログを保持できるようになっています。

「今後は、機密性の高いファイルを外部に持ち出せない、特定のユーザーにしか見せない、といったポリシー設定も AvePoint Policies & Insights で実現したいと考えています」と大川 氏。また、Microsoft Entra ID の「属性ベースのメンバーシップ ルール」によって、動的メンバーシップを適用することも考えていると言います。

「AvePoint 製品を導入することで、限られたスタッフ数でも『かゆいところに手が届く』 Microsoft 365 の運用管理が可能になりました。学内だけでなく学外も含めたコミュニケーションに、これからも Teams を役立てていきたいと考えています」（福田 氏）。

